

授業科目名 (英訳)	イノベーション創成論 Theory of creating innovation					担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 教授・山口 栄一				
配当学年	1・2・3 回生	単位数	2	開講年度 開講期	H27 後期	曜時間	水/5	授業形態	講義	使用言語	日本語 英語
〔授業の概要・目的〕											
<p>イノベーションを定義づけその生成プロセスを分析し、さらにその構造を明らかにして、イノベーションの方法論を考察することが、本科目の目的である。特に本科目では、イノベーションの源泉は何か、そしてそれを如何に生み出し価値創造につなげていくかについて、体系的な理論を展開する。まず、クレイトン・クリステンセンの破壊的イノベーションの誤謬の中から新しいイノベーションの構造であるパラダイム破壊型イノベーションを発見し、その表現手法としてのイノベーション・ダイアグラムを学ぶ。次に、パラダイム破壊型イノベーションの4つの例、すなわちトランジスタ、MOSFET、HEMT、青色発光ダイオードを、イノベーション・ダイアグラムを描きながら学び、ブレークスルーのタイプ1を深く理解する。次に、ブレークスルーのタイプ2とタイプ3を理解して、イノベーションにとって最重要の次元が「創発」(abduction)と「回遊」(transilience)にあることを理解する。最後に、これらを体系的にまとめあげたのち、イノベーションの創成手法とそれを育む組織の在り方にかかわる研究成果を、全員で討論する。</p>											
〔到達目標〕											
<p>イノベーションとは何かを現場感覚で理解してその生成プロセスを分析し、その構造を明らかにする力を獲得すること。さらに20世紀最大のイノベーションであるトランジスタを始め、青色LEDやiPS細胞などのブレークスルー・イノベーションのプロセスと構造を他者に教授できるようになること。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>第1回 クリステンセンの破壊的イノベーションー「イノベーションのジレンマ」を議論する。  第2回 パラダイム破壊型イノベーションの発見ークリステンセンの破壊的イノベーションのほころびから出発して、パラダイム破壊型イノベーションを発見する。  第3回 ケーススタディ・トランジスターブレークスルーのタイプ1について理解する。  第4回 ケーススタディ・MOSFETとHEMT  第5回 ケーススタディ・青色発光ダイオード  第6回 ケーススタディ・青色発光ダイオード裁判ー原告側・被告側に分かれてディベートを行なう。  第7回 ケーススタディ・ARMーブレークスルーのタイプ2について理解する。  第8回 ケーススタディ・Pax Britannicaと蒸気機関ーブレークスルーのタイプ3について理解する。  第9回 ケーススタディ・iPS細胞  第10回 ブレークスルーのイノベーション理論ーブレークスルーのイノベーション理論を体系化する。  第11回 ケーススタディ・JR福知山線事故の本質ー検察側と被告人側に分かれて模擬裁判を行なう。  第12回 ケーススタディ・東電福島原発事故の本質ー検察側と被告人側に分かれて模擬裁判を行なう。「会社とは何のために存在するのか。企業の社会的責任とは何か」を、全員で議論する。  第13回 スペシャル・ゲスト1  第14回 スペシャル・ゲスト2  第15回 受講生による研究発表ー最終レポートの進捗を発表する。</p>											
〔履修要件〕											
特になし											

### 〔成績評価の方法・観点及び達成度〕

クラスへの貢献 50%、期末レポート 50%

イノベーションとは何かを現場感覚で理解してその生成プロセスを分析し、その構造を明らかにできるようになったかどうか。さらに 20 世紀最大のイノベーションであるトランジスタを始め、青色 LED や iPS 細胞などのケーススタディを語るできるようになったかどうか。これらの達成度をレポートにより評価する。

### 〔教科書〕

山口 栄一『イノベーション 破壊と共鳴』（NTT 出版、2006 年）

### 〔参考書等〕

クレイトン・クリステンセン『イノベーションのジレンマ』（翔泳社、2001 年）

山口 栄一『JR 福知山線事故の本質—企業の社会的責任を科学から捉える』（NTT 出版、2007 年）

FUKUSHIMA プロジェクト『FUKUSHIMA レポート—原発事故の本質』（日経 BP コンサル、2012 年）

### 〔授業外学習（予習・復習）等〕

予習＝前もって教科書、参考書をきちんと読むこと。復習＝プレゼン資料を再度読みこなすこと。

### 〔その他（オフィスアワー等）〕

オフィスアワー＝いつでも。メールにて予約を受け付ける。